

いちご新規参入経営支援マニュアル

チェックポイントと経営試算、
先輩からの助言



平成24年3月

栃木県農業試験場 いちご研究所

〇はじめに

近年、非農家から農業に参入する事例も増えており、特に、本県の主要品目であるいちご栽培の割合が最も高くなっています。

しかし、農外から就農する場合、農地確保や技術習得等の面で、農業後継者と比べハンディキャップが大きく、就農を断念するケースや、経営が軌道に乗るまでに時間を要するケースも散見されます。

一方、県内のいちご経営体の過去 3 年間の推移をみると、経営規模 50a 以下の経営体が減少している半面、50a 以上では増加するなど、いちご経営体の規模は拡大傾向にあります。

これらの状況を踏まえ、新規参入者及び大規模経営体の事例調査を行い、既存の資料等も活用しながら、それぞれで留意すべき点についてチェックポイントとしてまとめました。

更に、新規参入の経営収支試算や、新規参入した方からの助言も記載しましたので、これから新規参入でいちご経営を始めようと考えている方への参考資料として役立てて頂ければ幸いです。

折しも、来年度から 45 歳未満の新規就農者を対象とした支援事業が導入されますが、これを好機として、本県いちご産業の未来を支える人材の確保育成が進むことを期待します。

最後に、今回の調査にご協力頂きました農業者や関係者の皆様に感謝いたします。

平成 24 年 3 月

栃木県農業試験場長 鈴木 崇之

○目 次

1 チェックポイント

- (1) 新規参入する際のスケジュール概略 1
- (2) 新規参入のチェックポイント 2
- (3) 規模拡大のチェックポイント 4

2 新規参入によるいちご経営の収支等試算

- (1) 新規参入の経営モデル 6
- (2) 初期投資等の試算 7
- (3) 所得の試算 8
- (4) 単収と農業所得の関係 9
- (5) 労働時間、雇用労賃の試算 10
- (6) 減価償却費の積算 11
- (7) 資金フローのシミュレーション 12

3 新規就農者への助言

- 経験を踏まえての後進へのアドバイス 13

1. チェックポイント

(1) 新規参入する際のスケジュール概略

新規参入で就農するまでの期間は、「就農相談期」「就農準備期」「就農後」の3段階に分けて考えられる。

就農相談期に必要なことは、①経営イメージの具体化であり、②資金の準備である。①、②をはっきりとさせてから、③栽培技術や④農地、⑤住居を探すことになる。

また、就農支援資金を借入する場合や農地を借りる場合は、それぞれ必要な手続きがあるため、関係機関等の助言を受けながら、遅滞なく進める必要がある。

それぞれのスケジュール感は下表のとおりであるが、期間はモデルケースであり状況により前後する。

期間	就農相談期				就農準備期				就農後			
	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12
チェックポイント	①経営イメージの具体化 ②資金の準備											
	③栽培技術を身につける 研修先を見つける ← 基礎研修 (4~3月) → ← 実践研修 (8~3月) →											
	④農地を見つける ← →											
	⑤住居を見つける ← →											
	手続関係	(就農支援資金を借入れする場合)										
就農計画の策定		認定就農者の認定		就農資金借入申込		農地貸借申請						
栽培関係												
					親株購入		親株定植		苗取り 定植		収穫	
← ハウス・機械等の整備 →												

(2) 新規参入のチェックポイント

いちごで新規参入する際に必要となる項目について、チェックポイントを示した。具体的な計画を考えていく際の参考として活用ください。

いちご新規参入のチェックポイント

①経営イメージの具体化

- 就農候補地が具体的に決まっている
 - 決まっていない場合は、全国新規就農相談センター(事務局：全国農業会議所)に相談ください。具体的な候補地が決まっている場合は、その地域の自治体に、栃木県内で就農を考えている場合は、(財)栃木県農業振興公社にご相談ください。
- 将来のいちご経営のイメージが明確である
 - 栽培規模が決まっている
 - 栽培方法(土耕、高設ベンチ等)が決まっている
 - 販売方法(JA系統販売、直接販売等)が決まっている
 - 所得目標、おおまかな収支が理解できている
- 就農後の生活の具体的なイメージがある
 - ライフプランを立てる、家計簿をつけるなど、イメージを掴んでください。

②資金の準備

- 初期投資の資金として約1,400万円の自己資金がある
 - 就農資金(制度融資)を利用しようと考えている場合には、具体的な就農計画を作成し、県知事による計画の承認が必要となります。
 - 就農計画に記載する、所得目標、労働力、研修計画、資金調達計画等ができる
 - 融資を受ける際の保証人がいる
- 2年間の生活費600万円がある
 - 投資資金は条件により借入できますが、生活費は必ず用意しておく必要があります。600万円は研修期間中及び、1年目の生活費不足分を想定しています。2年目以降、収量が計画を下回る場合はさらに必要となりますので、その分も用意があると安心です。

③栽培技術を身につける

基礎研修

- 肥料や農薬に関する基礎知識がある
 - いちご栽培に関する基礎知識がある
 - 農業経営に関する基礎知識がある
- 自治体によっては、栽培技術などを学べる講座等があります。栃木県では、就農準備校「とちぎ農業未来塾」で関連する知識を学ぶことができます。

実践研修

- これまで農作物を育てたことがある
 - これまで施設で作物を育てたことがある
 - これまでいちごの栽培経験がある
- 経験がない場合、実地で学ばせてくれる農家の研修先を探す必要があります。
- 自分で研修先を探すことができる
- 県内には、新規就農の支援制度「JAはが野新規就農塾」があります。
- 研修先は自分の経営イメージ（栽培方法、販売方法など）と同じである
 - 研修後もいろいろと相談に乗ってもらえる
- 研修先農家以外に、部会の青年部や研究部に入ったり、研修会等に参加することも良い機会になります。

④農地を見つける

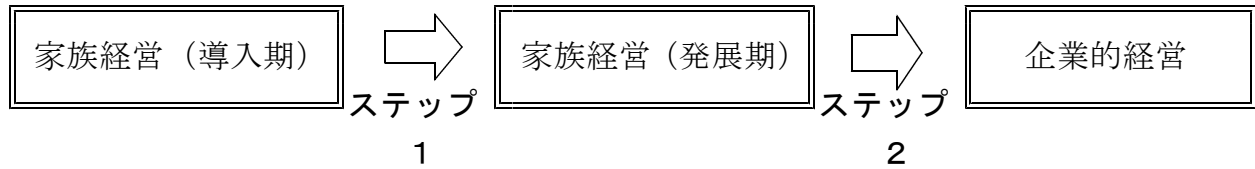
- いちごを作付する農地が決まっている
- 農地が決まっていない場合は、研修先農家やJA、農業委員会などの理解と信頼関係を得ながら探すことになります。
- いちご栽培をしていた農地か
- ハウス等が残っている場合は、施設も賃借することで初期投資額を低く抑えることができます。
- いちご栽培は初めての農地か
- その土地がいちご栽培に適しているか、確認して判断しましょう。
- 井戸があるか、電気が引いてあるか
- 新たな井戸掘削や電源工事には、百万円単位の費用がかかります。

⑤住居を見つける

- 本人あるいは配偶者の実家に同居することができる
- 実家に同居することで、費用負担が減ることに加えて、地域の信用を得られやすいメリットがあります。
- 住居と農地が近い
- 住居と農地が離れていると、栽培管理が行き届きにくくなるので、できるだけ近くで探しましょう。

(3) 規模拡大のチェックポイント

いちご経営における規模の拡大は、以下の発展段階に沿って進むと想定される。このため、この発展段階で必要となるポイントをリスト化した。



いちご経営の規模拡大のチェックポイント

ステップ1

家族経営（導入期）から家族経営（発展期）に移行する際のポイント

【生産関係】

- 栽培履歴、作業日誌を記帳している
- 作業計画に基づき栽培管理している
- 作業マニュアルを作成している
- 新技術を導入し、より効率的な生産をしている

【労務関係】

- 給料制を導入している
- 休日制、労働時間の設定を行っている
- 労働時間はタイムカードなどで管理されている
- 面積、家族労働のバランスにあわせて雇用を導入している
- 作業指示系統が整備できている
- 従業員は労災や傷害保険に加入している

【財務関係】

- 複式簿記を記帳している
- 家計と経営の口座を分離し、経理を明確化している
- 税理士などを利用している

【事業計画】

- 計画的な設備投資を行っている

ステップ2

家族経営（発展期）から企業的経営に移行する際のポイント

【生産関係】

- 生産性の高い作型を導入し、収穫期間の長期化に取り組んでいる
- 苗の外部購入や苗増殖施設の増設を計画している
- 高設栽培等の施設を導入し、軽労化に取り組んでいる
- 管理作業の自動化設備を導入し、省力栽培に取り組んでいる

【労務関係】

- 雇用労働者の技術力を高める研修を行っている
- 経営者以外にも作業指示できる人材の育成に取り組んでいる
- 周年雇用者が確保されている
- 外国人技能実習生の受入れを考えている
- 出荷調整作業の一部を外部に委託し、労力や経費を調整している

【財務関係】

- 原価計算、財務分析を行い、コスト管理をしている

【販売関係】

- 契約栽培など新たな販売方法を検討、導入している
- 商品の付加価値を高めている

【事業計画】

- 5年後、10年後の事業計画がある
- 経営者の経営理念や目標が明確であり、従業員に周知している

(H20県農試成績書をもとに一部加筆し作成)